

視察研修報告

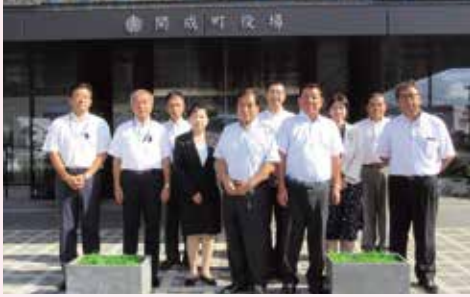
議会のライブ配信について

議会運営委員会

コロナ禍を契機にデジタル技術の活用が進み、平時においても多くの住民の声を議会審議に反映し、議会からも住民に発信するなど、議会のデジタル化への取り組みはますます重要になってきている。そのため、議会をライブ配信することで、議場を訪れることなく気軽に傍聴することが可能になる。

また、併せて録画配信も行うことで、時間や場所を問わず本会議を視聴することができる。

私たちは、住民に分かりやすく、透明性のある議会として、様々な取り組みにより、議会から住民へ情報発信するため、議会のライブ配信について研修した。



議会による事業評価について

総務産業建設常任委員会

事業評価とは「PDCAサイクル」の流れを循環させることにより、高い成果を得るための仕組みを作るのが基本となる考え方であり、「評価」と「改善」の部分をシステム化できることが最大のメリットであると言える。

私たちは議会は、住民の代表として、町の意思を決定する機能及び執行機能を監視する機能を担っており、町が実施する個別事業等を対象に、費用に見合った政策効果が得られているか、住民の意思が反映されているかなどの検証を行い、事業の充実や改善により、費用対効果の向上に取り組むため「議会による事業評価」について研修した。



多世代交流ができる公園等について

文教厚生常任委員会

多世代交流施設を考えた時に、当町においては、都市公園である都幾山滝の鼻公園や都市公園以外の雀川砂防ダム公園をはじめとする10カ所の公園や、各地域にある13カ所の児童公園及び公共施設の中で利用頻度の少ない施設の利活用を念頭に計画してはどうか。

今後、町民の有志活動や民間の活力と発想を活用し、多世代間のよい関係づくりが必要不可欠となると考えた時、社会状況をしっかり見極めた上で、多世代が交流し支え合い、程よい距離感でそれぞれがイキイキと生活していける環境を少しでも整えることが必要と考え「多世代が交流できる公園等」について研修した。



編集後記

今年の夏の暑さの異常さは誰もが認めるところである。「暑さ寒さも彼岸まで」のことわざが通用しなくなるような異常気象であった。町では地球温暖化対策として、昨年12月、実質二酸化炭素排出ゼロを目指して、当町と近隣3町村でゼロカーボンシティ共同宣言をした。

9月議会は決算議会であるが、質疑応答を担当課毎に行う特別委員会を設けて行った。多くの自治体を取り入れている形式である。執行部の出席者は主幹、主査まで出席できるようにした。初めてのことであり、執行部、事務局には大変ご協力を頂いた。

質疑応答が十分行われる議会、委員会でありたい。(岩田)

議会報編集委員会

- 委員長 岩田 鑑郎
- 副委員長 田中 紀吉
- 畑 豊
- 長島 金作
- 山中 博子